



 **アセットサービスと標準化**
SWIFTの主要市場での取り組み

SWIFT証券セミナー2009
2009年6月10日
藤村 和久

キイポイント



- 基本的ニーズ
リスク / コスト
2009年以降
- 市場インフラ
本邦・海外市場
アセットサービス
- 標準化
XBRL
ISO20022

 2



ニーズ

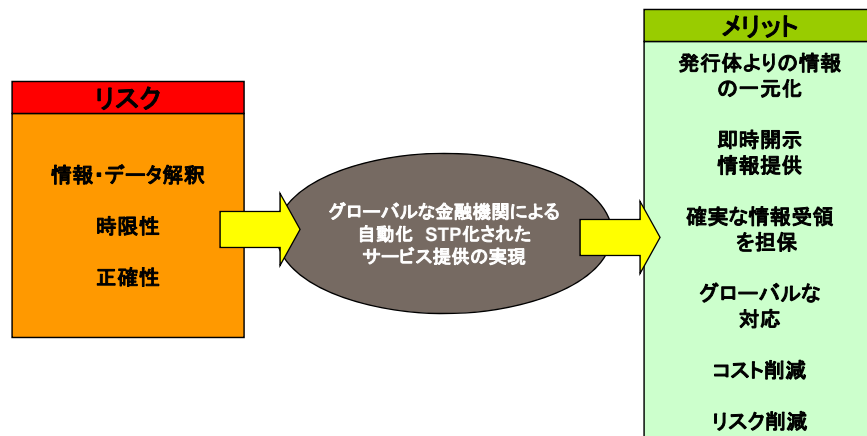
- データ情報のニーズ
 - コーポレートアクション情報
 - 関連レファレンスデータ
 - 税務関連情報
 - 総会情報・議決権行使
 - マーケットクレーム・失念請求
- 業界全体にわたるコストの問題
 - マニュアル処理コスト
 - 問題処理・解決コスト



3

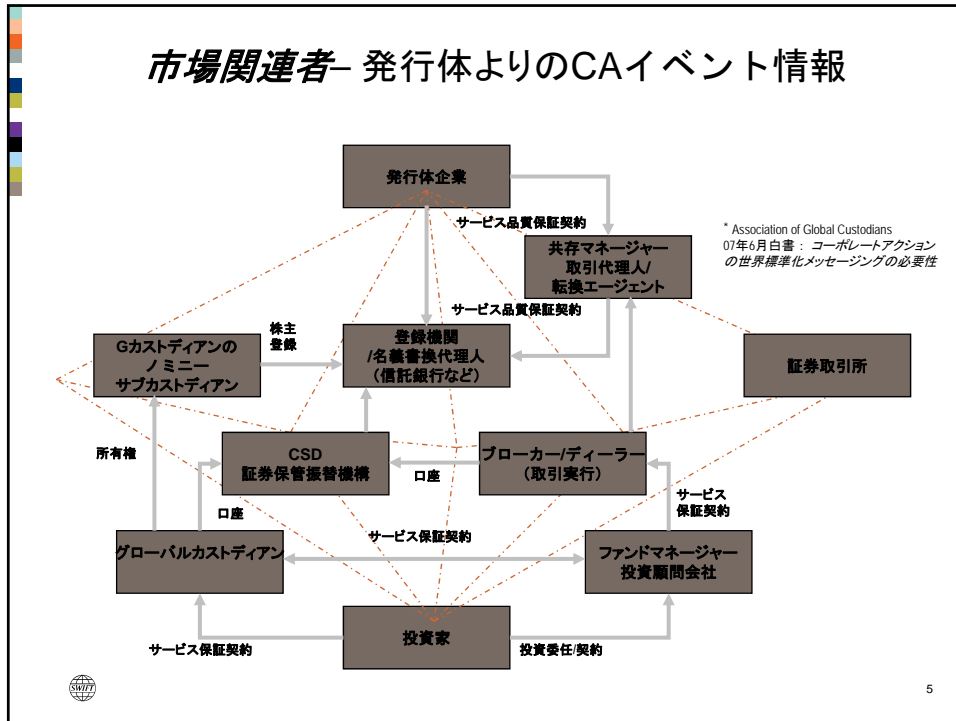
情報標準化の必要性

電子的情報により市場参加者全体がメリット享受



4





- ### 現状認識
- 2009年株式無券面化によるインフラ整備
 - コーポレートアクション業務への合理化・自動化ニーズ
 - 発行企業情報を取りまとめ発信元となるインフラサービスの整備
 - 決済系情報との相関関係
 - 海外でのコーポレートアクション情報標準化の動き
G30 の提案、Giovannini レポート
 - 日本市場に限定せず、グローバルな市場を想定
グローバルな資産対応のグローバルスタンダード活用
- 6



アセットサービスへのSWIFTの対応

(既存SWIFTプロジェクト)

- メッセージの慣行仕様準拠状況の自己検証サービス(STaQS)
- 議決権行使メッセージ Proxy Voting (ISO20022)

(標準化関連)

- 新仕様ISO20022への移行、ISO15022/20022 Reverse Engineering 新旧互換性の対応

(ISO 20022新メッセージ)

- 発行体(代行会社)のCA情報メッセージ(Euroclearと協力)
- 失念請求(Market Claim)のメッセージ(Euroclearと協力)
- 証券銘柄登録、保有者IDのメッセージ(Euroclearと協力)

(XBRL関連)

- DTCC、XBRL USとの共同プロジェクト 発行会社のCA情報の発信



7

コーポレートアクション分野における XBRLとSWIFTの共同

- SWIFT, XBRL, DTCC、ISOとの間で共同プロジェクト化
 - 最終目的: XBRLの要素・データとISO 20022 要素との関係づけ
 - XBRL データとそれに対応する ISO 20022 data dictionary との容易なマッピングの実現
 - XBRLの taxonomy (data dictionary) の構築推進
 - ISO 20022 のビジネスコンセプトを基準
 - プロトタイプ作成(合併、TOBを例) 2009年5月末予定
 - その他イベントタイプ作成(2009年第4四半期)

**XBRLは、発行体から始まり、コーポレートアクション情報に関わる
全市場参加者間の情報のフローチェーンに生じる
ギャップを埋める機能を果たす**



8



